シャロムヒュッテの自然農 …… 2

草を刈る・種を蒔く

土を耕さず、農薬も使わない自然農。はびこる夏草をどのように対処しているのだろう？豪雨の影響はあるのか？訪れるたびに驚きと発見を与えてくれる、シャロムヒュッテの自然農。連載第二回目です。

文●わたなべようこ
text : Yoko Watanabe
写真●キッチンミノル
photograph : Kitchenminoru

豪雨あとの信州・安曇野へ

私たちがシャロムヒュッテを訪ねたのは、異例の長梅雨がまだ明けない七月下旬。少し前のニュースでは、長野県内で、豪雨のために土砂崩れや堤防決壊などの被害が起きたことを伝えていた。

松葉杖姿で出迎えてくれたオーナーの臼井健二さんが骨折したのも、豪雨が原因だったという。山菜採りに山へ出かけたところ、崖崩れが起き、バスケットボール大の岩が太ももに直撃したのだ。痛みが残る足をさすりながらも、やはり気になるのは、夏の畑の様子。「手がかけられなくて。今年は荒れ放題になっちゃってね」

残念そうに語る臼井さんを残し、私たちは自然農講師・竹内孝功さんと共に、畑へと向かった。

実り多き自然農の畑

自然農の夏の畑は、一般的な畑に比べ、明らかに景色が違っている。足元には夏草が青々と生い茂り、または刈ったばかりの草が敷かれ、茶色い土が見えている場所は、全くといっていいほど見当たらない。しかしよく見ると、草の間からキャベツやニンジンの葉があちこちに。さらに視線を上げると、支柱にからまるキュウリ、トマト、ナス、トウモロコシ……、おなじみの夏野菜が、雨上がりのたっぷりとした水滴を含んでいる。「そんなの当たり前」と言わんばかりに、豊かに実る野菜たちを見ていると、肝心なことを忘れてしまう。ここでは、「耕さない、持ち込まない、持ち出さない、虫や草を敵としない」という考えが基本。肥料も農薬も使わず、草は抜かずに刈る。そして、刈った草はその場所に敷いて土に還し、野菜を育てるのだ。この春、初めてここを訪れたときに頭をかすめた「本当にそれで育つのか？」という不信感は、嬉しいことに、みごとに覆された。

●臼井健二／宿、レストラン、ショップが集まったエココミュニティ・舎爐夢ヒュッテのオーナー。豪雨による土砂崩れに巻き込まれ、大腿骨骨折。畑作業はお休み中。http://www.ultraman.gr.jp/~shalom/●竹内孝功／自然農法菜園アドバイザー。松本市にて「自給自足の休日倶楽部」を設立。臼井さんが信頼を寄せる自然農のパートナーで、今回の技術指導を担当。http://www.happyjj.mydns.jp/

ポジティブ農法

臼井さんが手をかけられない今年の畑は、スタッフたちが手伝っているとはいえ、雨のために作業ができず、草と作物が混在してしまっている場所もちらほら。確かに理想の姿よりも荒れているのかもしれない。

「自然農というと、放ったらかしにすることと誤解されやすい。でも本来の自然農の畑は、植物と草が共生し合って本当にきれいですよ。そのためには、ちゃんと世話をしてあげること。夏の間も『草を刈ったら種を蒔く』という作業をセットにして、常に行うことが大事なんです。草刈りばかりしていても、次々と草が出てくるだけ。だから、刈ったところに野菜の種を蒔けばいいんです。野菜が育ちだすと、根がはって草を抑えることができる。時期をずらして収穫もできるし、理想的ですよ」

ただ、と臼井さん。

「今年の夏は草が多いけど、秋のためにはこれもいいんです。草を刈ってマルチにすれば、土が肥えるから。悪い時があっても、複合的に見たら良いことにつながることもある。小さな側面で評価をしないことだね」

自然農の畑には、鳥や虫がたくさん訪れる。それは、自然界そのものの営みを大切にしているから。当然、作物を食べられることもあるけれど、それもよし。とれた分だけいただければいいのだから。

トマトは枝と葉の間から出てくるわき芽を小さなうちにかき取る。大きなわき芽はそのまま土に差すと再び生長。誘引は紐を8の字に回して枝側の輪はゆったり、支柱側は二重巻きにしてしっかり。

春の取材時に植え付けたジャガイモを収穫。ちょっと小ぶりだけど、風味豊かで美味しい！自然農の野菜は、保存性が高いのも特徴。シャロムヒュッテの五日市保之さんが、早速お料理。

トウモロコシとインゲンとカボチャは仲良しトリオ。インゲンの根粒菌はトウモロコシの栄養となり、トウモロコシはインゲンの支柱に。日陰を好むカボチャは、トウモロコシの木陰で草を抑える。

草が育つ＝豊かな畑

自然農の畑にとって、草は邪魔なものではなく、それが生えることで豊かな畑だと知らせてくれる存在。その草は肥料にもなるのだから。敷き草のおかげでミミズがいっぱいの土からは、大きな実をたくさんは採れないけれど、毎年常に、通常の畑の60～70％は収穫できる。それで十分。

豪雨の後でも崩れない畑

長野県を襲った豪雨の影響が、自然農の畑ではまったく見られない。隣家の畑より一段高くなっているシャロムの畑だが、草の根が張っているため、まったく土崩れが起きなかった。また、根が水の抜け道になるので水はけが良く、土に水がたまることもなかった。

草が生える自然農の畑は、土砂崩れしない

［草の刈り方］

1.草刈りは頻繁に行うが、あまり神経質にならずに、野菜と草丈が均衡して野菜が負けそうになったら刈る。2.刈った後の土を見ると、コロコロと小さい粒になっている。これが団粒構造。3.刈った草は同じ場所に敷いておく。

［ダイコンの点蒔き］

1.ダイコンの種を蒔く場所だけ草を刈る。直径15cm程度の円形が目安。周りの草はダイコンの生長を邪魔しそうなものだけ刈る。2.表土を1cmほどかき分けて既に落ちている草の種を取り除き、土を平らにする。3.円の中に種を4粒ほど蒔く。4.近くを掘って種が混ざっていない土を取り出し、種の2〜3倍の高さになるよう上からかける。5.手のひらで平らにする。6.刈った草を敷く。点蒔きは、少量でもいいから確実に収穫したいときにおすすめの方法。

［ソバの種蒔き］

1.ソバは肥料がなくても育ち、痩せた土地向き。まずは草が茂っている中に種を蒔く。2.草を根元から刈る。3.刈った草をその場に敷けば、種はちゃんと土に着地する。ソバは草よりも生長が早く、草を抑えることができる。

今回のまとめ

草の刈りどき

草刈りは頻繁に行うが、夏の草刈りで特に大切な時期がある。それは、安曇野では7月中旬の約2週間。冬草が終わり夏草が出てくる時期で、ここでしっかり草を刈って野菜の種を蒔くと、夏草は出だしをくじかれ、その間に野菜が根を張り、草の生長を抑えられる。

生気溢れる畑。左は種取り用に咲かせているニンジンの花。誘引用の麻ひもも準備OK!